

令和8年7月17日の大雨・突風に対する農作物技術対策

令和8(2026)年7月21日
栃木県安足農業振興事務所

I 共 通

1 ほ 場

- (1) 冠水や浸水の被害を受けたほ場は、速やかに排水を行う。

2 施 設

- (1) 修繕、撤去
 - ① 破損したパイプハウス等は、速やかに修繕する。
 - ② 施設の破損が甚だしい場合は、作業の安全性を確保しながら撤去する。
- (2) 機器の動作確認
 - ① かん水装置や自動換気等の制御装置等の付帯設備については必ず動作確認及び設定確認を行う。

3 作業に当たっての熱中症対策

- (1) 暑さに慣れていないこの時期は、熱中症リスクが高いため、こまめに休憩をとり、水分・塩分を補給する。
- (2) 暑熱環境での体調不良は熱中症の可能性がある。体調不良の症状があれば、ただちに作業を中断し、応急処置をとる。
- (3) 応急処置をしても、症状が改善しない場合は、迷わず医療機関で診察を受ける。

II 普通作物

1 水 稲

- (1) ゴミが流入している場合は速やかに除去する。
- (2) 冠水や風雨により白葉枯病やいもち病の発生が心配される場合は、登録のある殺菌剤を散布する。
- (3) 土砂が流入している場合は、コンバイン収穫に影響がある部分を収穫前に色つきポール等で目印をたて、収穫時に事故のないようにする。土砂は、収穫後に排出する。
- (4) 栽培継続が困難な場合は、状況に応じて流入した土砂・石等をほ場外に搬出する。

III 野 菜

1 共 通

- (1) 速やかに排水対策を行う。
- (2) 病害が発生しやすいので、予防的に登録のある殺菌剤を散布する。

2 いちご

○ほ場の管理（ほ場内が冠水、浸水している場合）

- (1) 水中ポンプ等を利用して、速やかに排水対策を行う。
- (2) ゴミ等が流入している場合は速やかに除去する。
- (3) ほ場がある程度乾燥するのを待って、土壌消毒を行う。定植前の土壌消毒が2回目になる場合には、前回と同一成分の薬剤は使用しないよう注意する。

○病虫害対策

- (1) 炭疽病の発生が懸念されるので、速やかに薬剤散布を行う。
- (2) 冠水した苗は極力使用しない。やむを得ず使用する場合、特に生長点付近についた土砂は、動噴等を用いてよく洗い流す。

3 アスパラガス

- (1) 施設内に浸水している場合は、早急に排水と乾燥に努める。
- (2) 茎枯病の発生が懸念されるので、速やかに薬剤散布を行う。
- (3) 病害の発生により追加立茎する場合には、なるべく早めに行って本数を確保する。

IV 花 き

1 ユーカリ

- (1) 速やかな排水と乾燥(適湿)に努める。
- (2) 防草シートを設置している場合は株元のシートをまくり、土壌の乾燥を図る。
- (3) 斑点性病害の多発に備え、予防的に登録のある殺菌剤を散布する。
- (4) 根の酸欠を予防するため、表土を耕して通気性を改善する(土壌がぬかるみ耕起が困難な場合は、土壌の孔隙を維持するため踏み入らない)。

(注意)

- ※ 農薬の使用に当たっては、使用基準(適用作物、希釈倍数、使用時期、使用回数等)を厳守する。同一成分の使用回数にも制限があるので注意する。
- ※ 農薬散布に当たっては、散布時の飛散防止に十分注意する。



農作物には登録農薬を使用し、使用基準を遵守しましょう！

身支度も
万全にし
てまる！

- ①農薬容器のラベルをよく読み正しく使う(※)
- ②農薬の飛散防止を徹底する
- ③農薬の使用状況を正確に記帳する

※既に購入されている農薬について、ラベルどおり使用できない場合もありますので、メーカーのチラシや県のホームページ等、最新の情報をご確認ください。

栃木県農業総合研究センター

検索

CLICK!



農作業中の熱中症に注意しましょう

- ・こまめな休憩、水分、塩分補給を行いましょう
- ・単独作業は避け、一人作業の場合は携帯電話を持ちましょう
- ・体調不良を感じたら、すぐに作業を中断し、涼しいところで休みましょう